

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1980800011		
法人名	ルミナス株式会社		
事業所名	グループホームひかり昭和西条		
所在地	昭和町西条2092		
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 5 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 3年 12月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の理念「ひとに光を」を基にホームスローガン「ここのいねホーム」を掲げ、入居者様一人一人の望む生活の実現に向けて、日々寄り添い想いをくみ取れるような関りに努め、認知症状態によって失われた部分を補うことで家のようにその人らしい安心して尊厳のある生活が送れるように努めております。職員は認知症ケアを的確に提供できるように学びを忘れず、認知症ケアのプロとなる意識と向上心を持って、その方の望む生活の実現を追及していきます。そして、ご家族や地域の方が「ここがあるから大丈夫」と安心していただけるような存在を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東京の本社を拠点に千葉、神奈川、山梨にグループホームを展開、専門性の高い運営機関として、笑顔に溢れた高齢者のグループホームを目指しています。本事業所は平屋建ての2ユニットで、履き出し窓からバルコニーが一体化した開放的な造りで、その先には畑が広がり、栽培した野菜を食卓で楽しむ家庭的なホーム作りを行っていました。その人らしさを生かせる食事作りや畑の耕作、カラオケに至るまで、入居者様の楽しみから生き甲斐を見出す日々のケアを実践していました。またカフェを開催して認知症の高齢者を抱えて困っている方からの相談、認知症の理解を深めて頂く講座を開くなど、地域に根差した存在感のある事業所になっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームひかり昭和西条**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	外部評価
			ユニット名(西フロア)	ユニット名(東フロア)		
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念として「ひとに光を」を掲げ、利用者・ご家族スタッフの3者にとってひかりが当たる環境を提供できるように心がけ、日々のケアをしています。	運営理念として「ひとに光を」を掲げ、利用者・ご家族スタッフの3者にとってひかりが当たる環境を提供できるように心がけ、日々のケアをしています。	会社全体の「ひとに光を」を運営理念に掲げて、その入らしきを大切にしながら日々のサービスに繋げていました。毎日の生活が楽しいものになるように、日常生活の散歩や畑仕事にレクリエーション、外出・外食・ドライブなどの定期的なサービスを提供するなど、理念に沿ったケア実践に努めていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域の行事も中止され、参加できない状況やホーム行事にもお招きすることができない状況が続いています。コロナ禍でもできる地域交流を模索していますが、今はホーム内や外出行事の様子を頻回にSNSを利用して発信しています。	コロナ禍で地域の行事も中止され、参加できない状況やホーム行事にもお招きすることができない状況が続いています。コロナ禍でもできる地域交流を模索していますが、今はホーム内や外出行事の様子を頻回にSNSを利用して発信しています。	毎月入居者中心に開いていたカフェや積極的にボランティアを受け入れたり、認知症ステップ講座やサポーター養成講座をアウト向け開催していました。最近ではコロナ禍になり開催困難になっている現状ですが、SNSでホームの様子を伝えたり、ライン電話を活用するなどして、地域との繋がりを絶やさぬように工夫されていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門学校生の実習や認知症サポーターの方の実践の場として、また認知症サポーターステップアップ講座等の活動もコロナ禍で中止していましたが、認知症サポーター養成講座は徐々に活動再開を始めています。	専門学校生の実習や認知症サポーターの方の実践の場として、また認知症サポーターステップアップ講座等の活動もコロナ禍で中止していましたが、認知症サポーター養成講座は徐々に活動再開を始めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催もコロナ禍でホームの現状の報告書を提出のみとなっていました。感染状況を見ながら徐々に再開、コロナ禍における地域の認知症を抱えた高齢者の課題やホームでの状況の情報交換から共に認知症の方を支えていくための話し合いが行われています。	2か月に1回の開催もコロナ禍でホームの現状の報告書を提出のみとなっていました。感染状況を見ながら徐々に再開、コロナ禍における地域の認知症を抱えた高齢者の課題やホームでの状況の情報交換から共に認知症の方を支えていくための話し合いが行われています。	コロナ禍で会議が開催できなかったため、ホーム内の様子を現状報告書にまとめて郵送していました。感染状況が落ち着いてきた際に、地域との情報交換を行い、認知症の方を抱えた困りごとや支え方などに、ホーム内の情報を伝えるなどして交流が図られていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、町の担当者へのホームの運営状況や試み、新規利用者のアセスメント状況等について報告しています。また、町には地域密着型運営会議が設けられており、現状報告や課題について報告相談する機会があります。	随時、町の担当者へのホームの運営状況や試み、新規利用者のアセスメント状況等について報告しています。また、町には地域密着型運営会議が設けられており、現状報告や課題について報告相談する機会があります。	同じ運営形態の事業所が集まる機会を町の方で設けて、交流を行う体制が整えられており、地域の企業から、認知症サポーター養成研修の開催を頼まれるなど、地域との連携に積極的に取り組んでいる様子が伺えました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行っているカンファレンスにおいて事例を用いた研修をしたり、身体拘束廃止・安全管理委員会を設け、定期的な委員会及び研修を本社主体で各ホームにて実施しています。	毎月行っているカンファレンスにおいて事例を用いた研修をしたり、身体拘束廃止・安全管理委員会を設け、定期的な委員会及び研修を本社主体で各ホームにて実施しています。	玄関の施錠は拘束に値するという考えから実施しておりません。しかし昨今の福祉施設での事件から、不審者への対策として利用者を守るという観点から施錠が必要であるかの検討をしております。会社主体で身体拘束廃止・安全管理委員会を設けて、事例を用いたカンファレンスや研修を定期的に開催して繰り返すことで、入居者への適切なケアに取り組んでいました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	アンガーマネジメント、ストレスマネジメントについての研修を行い、ケアする側の起こりうる感情への理解とコントロール方法を学ぶことで虐待防止につながる研修を行い、自分だけでなく共に働く仲間の虐待の防止にも努めています。	アンガーマネジメント、ストレスマネジメントについての研修を行い、ケアする側の起こりうる感情への理解とコントロール方法を学ぶことで虐待防止につながる研修を行い、自分だけでなく共に働く仲間の虐待の防止にも努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学ぶ機会を持ち、個々の必要性に対応できるように努めています。	社内研修にて学ぶ機会を持ち、個々の必要性に対応できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時、契約書、重要事項説明書の内容説明を行い、不明点や疑問点に回答し、ご理解いただいたうえで、入居していただいています。	利用契約時、契約書、重要事項説明書の内容説明を行い、不明点や疑問点に回答し、ご理解いただいたうえで、入居していただいています。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームひかり昭和西条**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西フロア)	ユニット名(東フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等に近況報告を出し、来訪時に細かくお話させていただいています。 また運営推進会議やご家族への顧客満足度アンケート調査から意見・要望を把握し、運営に対応可能な場合は即対応し、不可能な場合も適切に説明しています。	家族等に近況報告を出し、来訪時に細かくお話させていただいています。 また運営推進会議やご家族への顧客満足度アンケート調査から意見・要望を把握し、運営に対応可能な場合は即対応し、不可能な場合も適切に説明しています。	コロナ感染症対策で面会ができない、職員とも会えないので不安であるのご家族からの意見を聞き取り、電話でのやり取りを増やしたり、ライン電話を活用し、テレビ電話で現状を知って頂くなど、スタッフ間の連携で即座の対応が実践されていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に日常的にスタッフからの意見・提案をこちらから聞いていくこと、3か月に1度の面談を設けて意見をまとめ月に1度の本社会議の際に提出しています。	個別に日常的にスタッフからの意見・提案をこちらから聞いていくこと、3か月に1度の面談を設けて意見をまとめ月に1度の本社会議の際に提出しています。	新人職員には専属のトレーナーを配置したり、定期的に代表者との面談を実施するなど、会社主体で職員の意見反映の体制を整えていました。管理者は、日頃から色々な話を聞きとるようして、風通しの良い職場の雰囲気作りに努めていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設けており、OJTシートなどを使用して、管理者・スタッフが日々向上心を持ちケアに取り組める環境になっています。新しく入ったスタッフにもやりがいを持ってもらえるようにしています。	キャリアアップ制度を設けており、OJTシートなどを使用して、管理者・スタッフが日々向上心を持ちケアに取り組める環境になっています。新しく入ったスタッフにもやりがいを持ってもらえるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で行われる年間社内研修があり、新人から管理者まで計画に沿って研修が行われており参加しています。全員が参加できるようにシフトを組んでいます。	本社で行われる年間社内研修があり、新人から管理者まで計画に沿って研修が行われており参加しています。全員が参加できるようにシフトを組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社で行われる社内研修で別ホームとの交流や会議をしたり、他事業者様の研修に参加して意見交換なども行っています。また訪問看護を通じての情報交換をしています。	本社で行われる社内研修で別ホームとの交流や会議をしたり、他事業者様の研修に参加して意見交換なども行っています。また訪問看護を通じての情報交換をしています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談受付の際よりご本人との面会を行い、人生史や今後の要望などを可能な限り伺っています。また安心して生活をできるように事前にホームを見学していただいています。	相談受付の際よりご本人との面会を行い、人生史や今後の要望などを可能な限り伺っています。また安心して生活をできるように事前にホームを見学していただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付の際に、ご家族等にもお話を伺い今後のケアに役立てています。また、入居当日や数日後には電話にて様子を伝え、面会時に詳しく説明することによって関係を構築しています。	相談受付の際に、ご家族等にもお話を伺い今後のケアに役立てています。また、入居当日や数日後には電話にて様子を伝え、面会時に詳しく説明することによって関係を構築しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の際は、担当CMやMSWからの情報も集めた上で、グループホームでのケアが必要であるか見極め、必要に応じて他のサービスの紹介を行い、問題解決が適切に実施されるよう心がけています。	相談受付の際は、担当CMやMSWからの情報も集めた上で、グループホームでのケアが必要であるか見極め、必要に応じて他のサービスの紹介を行い、問題解決が適切に実施されるよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として、コミュニケーションを大切にしたいと、できることはしていただいています。できない部分について支援し、共に支え合う関係作りを進めています。	共同生活の場として、コミュニケーションを大切にしたいと、できることはしていただいています。できない部分について支援し、共に支え合う関係作りを進めています。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームひかり昭和西条

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西フロア)	ユニット名(東フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族等の持っている悩み、不安を共有し利用者と一緒に支えていく関係を築いています。また、ケアプランにおいて、家族の面会を願ひし、より一体感のあるケアをしています。また外部の会社を置き、いつでも相談出来る窓口があります。	ご家族等の持っている悩み、不安を共有し利用者と一緒に支えていく関係を築いています。また、ケアプランにおいて、家族の面会を願ひし、より一体感のあるケアをしています。また外部の会社を置き、いつでも相談出来る窓口があります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等、ご友人などの方々の面会も制限を設けていますが、再開しています。また、外出やドライブ先を近場に設けることによって、ここは知っているよなどと言っただけのようにしています。	ご家族等、ご友人などの方々の面会も制限を設けていますが、再開しています。また、外出やドライブ先を近場に設けることによって、ここは知っているよなどと言っただけのようにしています。	以前は地区の運動会やお祭りを楽しんで頂いていましたが、コロナ禍で外食も楽しめなくなった今は、ドライブに切り替えたり、テイクアウトで好きな物をホームで食べて頂いたり、感染症のレベルが下がった時には、お寿司を購入して馴染みの公園で食べて頂くなど、色々な工夫をして馴染みの場所への外出支援を行っていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の一人一人の性格を把握し、職員が仲介役となり、利用者同士で楽しく話したり、時には喧嘩したりもありますが、支え合い生活できるよう支援しています。	利用者の一人一人の性格を把握し、職員が仲介役となり、利用者同士で楽しく話したり、時には喧嘩したりもありますが、支え合い生活できるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた後も、ご家族や担当者の方からの相談は都度応じるようにしています。また、希望により、面会の橋渡しをし、関係性の継続の機会を設けています。	他の施設へ移られた後も、ご家族や担当者の方からの相談は都度応じるようにしています。また、希望により、面会の橋渡しをし、関係性の継続の機会を設けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者のしたいことや、昔話などを聞き、関わることによって、思いを汲み取るように努めています。毎月の外食や手作りランチは利用者様のご意見を聞き実施しています。また、ケアプラン以外にも毎月聞き取りを行いカンファレンスにて状態確認として話し合っています。	普段から利用者のしたいことや、昔話などを聞き、関わることによって、思いを汲み取るように努めています。毎月の外食や手作りランチは利用者様のご意見を聞き実施しています。また、ケアプラン以外にも毎月聞き取りを行いカンファレンスにて状態確認として話し合っています。	外出プランは、場所や食事の希望をまず利用者さんに聞き取って作成していました。日々の生活から、個々の意向をしっかりと見極められるように関わりを大切にし特性を読み取り、テイクアウトの時には、お弁当の写真を見せるなどして、個々の希望に沿ったサービスの提供に努めていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等だけでなく、アセスメントや今までのサービス提供過程とその経緯を担当マネージャーに伺っています。また自分史をご家族やご本人に書いていただき、更に情報収集をしています。	ご家族等だけでなく、アセスメントや今までのサービス提供過程とその経緯を担当マネージャーに伺っています。また自分史をご家族やご本人に書いていただき、更に情報収集をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有するカ等の現状の把握に努めている	スタッフは、利用者の状態変化や様子を申し送り時・日常生活時に情報交換し理解ある仲介者となれるように心がけています。カンファレンスではケアプランの更新の方以外にも状態確認をしています。	スタッフは、利用者の状態変化や様子を申し送り時・日常生活時に情報交換し理解ある仲介者となれるように心がけています。カンファレンスではケアプランの更新の方以外にも状態確認をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの際にアセスメントやモニタリングを実施し、家族とも話し合い、ケアの内容を決定させていただいています。	カンファレンスの際にアセスメントやモニタリングを実施し、家族とも話し合い、ケアの内容を決定させていただいています。	ケアマネジャーを中心にアセスメントを行い、本人とご家族の意向を聞き取りプランを立て、ホームの介護計画作成となっていますが、その後3ヶ月に1回の振り返りを行い、より本人らしく暮らせるようにサービスの提供に努めていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有グループを作ることによって、両フロアとも気づきを共有しています。またそれをカンファレンス等の話し合う体制が整っています。	情報共有グループを作ることによって、両フロアとも気づきを共有しています。またそれをカンファレンス等の話し合う体制が整っています。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームひかり昭和西条**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西フロア)	ユニット名(東フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護サービスにより健康状態の把握に努め、利用者・家族のニーズに対応できるよう訪問マッサージ・訪問歯科の導入をしています。 また会社の機関に属さない独立したQC室を設置し顧客満足度調査などを行っています。	訪問看護サービスにより健康状態の把握に努め、利用者・家族のニーズに対応できるよう訪問マッサージ・訪問歯科の導入をしています。 また会社の機関に属さない独立したQC室を設置し顧客満足度調査などを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや介護保険係、他事業所のケアマネージャー達と協力しながら、地域資源の活用について話し合いをしています。	地域包括支援センターや介護保険係、他事業所のケアマネージャー達と協力しながら、地域資源の活用について話し合いをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、利用者・ご家族の希望のある医療機関にかかれるように外出支援しています。また、希望で月2回、長田在宅クリニックと声沢内科の医師に往診していただいています。	受診の際は、利用者・ご家族の希望のある医療機関にかかれるように外出支援しています。また、希望で月2回、長田在宅クリニックと声沢内科の医師に往診していただいています。	かかりつけ医に通っている方は、4名ほどいますが、入居後は定期的に訪問して頂いている2名の医師に診ていただいています。今では日頃の体調を一番把握して頂いており、安心して暮らすことができていました。夜間の対応もスムーズに行える体制が整っていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	甲州訪問看護ステーションより看護師が毎週火曜日に健康チェックなどをしに来ていただいています。日々のケアでの気づきや対応を相談しています。	甲州訪問看護ステーションより看護師が毎週火曜日に健康チェックなどをしに来ていただいています。日々のケアでの気づきや対応を相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	各医療機関の方々と入退院の際には、必ず情報交換の機会を設けていただいています。またソーシャルワーカーとの連絡を入院中は少なくとも1週間に1度はしています。	各医療機関の方々と入退院の際には、必ず情報交換の機会を設けていただいています。またソーシャルワーカーとの連絡を入院中は少なくとも1週間に1度はしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や担当医の方との積極的な話し合いの場を設け、適切なサービスをご説明したり、重度化や終末期への対応方針について協議を行っています。	家族や担当医の方との積極的な話し合いの場を設け、適切なサービスをご説明したり、重度化や終末期への対応方針について協議を行っています。	体調が急変し重度化した際は、担当医師とご家族との話し合いの場を設け、今後の対応方針を決めました。看取りの希望があった際は、医師の指導のもと関係者とご家族の意向を共有しながら連携し、看取りの体制を整えていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時の研修や、マニュアルを整備し、急変や事故発生時の対応をカンファレンスなどで再確認して、常に学んでいます。またAEDの使用法など年に1度程度のペースで(全員受けた後は新しい職員が来たら)行っている。	入職時の研修や、マニュアルを整備し、急変や事故発生時の対応をカンファレンスなどで再確認して、常に学んでいます。またAEDの使用法など年に1度程度のペースで(全員受けた後は新しい職員が来たら)行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて参加者の方々に協力をお願いするとともに、年に2回の消防・避難訓練をし、毎回違う状況を作り避難経路を確保し、職員にもカンファレンスなどで再確認をしています。時間を計り、職員も利用者にも意識を持ってもらっています。	運営推進会議にて参加者の方々に協力をお願いするとともに、年に2回の消防・避難訓練をし、毎回違う状況を作り避難経路を確保し、職員にもカンファレンスなどで再確認をしています。時間を計り、職員も利用者にも意識を持ってもらっています。	運営推進委員会のメンバーをはじめ、地元の消防団にも参加してもらうなど、年に2回の避難訓練を行っていました。訓練後の振り返りでは、より早く安全に避難できる経路の見直しや、その後の安全性に至るまでのカンファレンスを繰り返すことで、近所との連携と協力体制を模索してきたいと、今後の課題も明確にして真剣に取り組んでいました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフにはカンファレンスにおいて、日々のケアや一人一人に合った声掛けの統一・理解をしていただいています。	スタッフにはカンファレンスにおいて、日々のケアや一人一人に合った声掛けの統一・理解をしていただいています。	日々のカンファレンスで、しっかりした方針を職員全員で見極め、利用者さんが混乱しないように統一したケアで取り組んでいました。特に個々の特性を理解し、人生の先輩という思いで尊重した声掛けを忘れずに、ひとり一人に向き合った支援を展開していました。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームひかり昭和西条

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西フロア)	ユニット名(東フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中からコミュニケーション作り、信頼関係作りにも努め、本人の思い、希望を表出できるよう努めています。随時個別に話す時間を意識し、思いや希望を共有できるよう努めています。	日々の生活の中からコミュニケーション作り、信頼関係作りにも努め、本人の思い、希望を表出できるよう努めています。随時個別に話す時間を意識し、思いや希望を共有できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に声掛けをし、その日の様子により可能な限り柔軟な対応を心掛けています。共同生活の場なのである程度の決まりはあるが、ご自分の意思でやりたいことがある場合そちらを尊重しています。	一人一人に声掛けをし、その日の様子により可能な限り柔軟な対応を心掛けています。共同生活の場なのである程度の決まりはあるが、ご自分の意思でやりたいことがある場合そちらを尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や起床時の整容等は、出来る限りご本人に行っていたりできるように支援しています。	衣類の洗濯や起床時の整容等は、出来る限りご本人に行っていたりできるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度両フロア合同で昼食を作る機会を設け、その際にはメニュー決めや段取りなど、可能な限り伺い、要望に沿う形で進めています。食事前から片付けまで、持てる力を大いに発揮できる場を提供しています。	月に一度両フロア合同で昼食を作る機会を設け、その際にはメニュー決めや段取りなど、可能な限り伺い、要望に沿う形で進めています。食事前から片付けまで、持てる力を大いに発揮できる場を提供しています。	月に一度、希望メニューを聞き取り、個々の利用者さんが持っている力を発揮できるように、職員と一緒に昼食作りを行っていました。特に「ほうとう」の希望が多く、小麦粉を練って麺を作るところから始めて、野菜は能力に応じて包丁を使ったり、手でちぎるなど、沢山の利用者さんが参加し、準備から片付けまで賑やかで楽しいひと時となっていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・食事形態を一人一人に合わせて提供しています。日頃のアセスメントを重視し、食事量・水分の摂取量は介護記録等に都度記録し、全スタッフが把握、共有できるようにしています。	食事量・食事形態を一人一人に合わせて提供しています。日頃のアセスメントを重視し、食事量・水分の摂取量は介護記録等に都度記録し、全スタッフが把握、共有できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導や介助により口腔ケアをしています。また、必要な方にはケアプランに記載し、その方に沿ったケアをしています。	毎食後、声掛け誘導や介助により口腔ケアをしています。また、必要な方にはケアプランに記載し、その方に沿ったケアをしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄に心掛け、個人のチェック表を記入して、本人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っています。また、カンファレンスを通してリズムを話し合い、その方に適した方法を検討しています。	トイレでの排泄に心掛け、個人のチェック表を記入して、本人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っています。また、カンファレンスを通してリズムを話し合い、その方に適した方法を検討しています。	個々の排泄パターンを把握して、ご本人のプライドを傷つけないような声掛けを行い、出来るだけトイレで排泄が出来るように促していました。個々の排泄リズムの確認を継続し、その時々情報を共有しながら、日々の支援に取り組んでいました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前や、お茶の時間などに牛乳や牛乳を使った物を提供したり、体操を行い腸内活性を促し便秘予防に努めています。	朝食前や、お茶の時間などに牛乳や牛乳を使った物を提供したり、体操を行い腸内活性を促し便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の方を毎日入浴できる体制が整っています。また入浴の際には必ず事前に声掛けを行い、安全に配慮した入浴の環境作りにも努めています。	希望の方を毎日入浴できる体制が整っています。また入浴の際には必ず事前に声掛けを行い、安全に配慮した入浴の環境作りにも努めています。	入浴希望時間も個々によって異なり、午前中に入りたい方、寝る前に入りたい方といった希望に沿った対応が実施されていました。また、その日の気分が入浴を拒否されても、間をおいての対応や関わる職員を変えたり、日を改めて職員間の連携で、楽しみとなるような入浴時間の提供に努めていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活習慣に合わせて、就寝時間や環境作りを意識しています。また、気持ちよく休んでいただけよう、快適な居住環境や寝具の整備にも配慮をしています。	利用者一人一人の生活習慣に合わせて、就寝時間や環境作りを意識しています。また、気持ちよく休んでいただけよう、快適な居住環境や寝具の整備にも配慮をしています。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームひかり昭和西条**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西フロア)	ユニット名(東フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や副作用等スタッフに徹底させ、二人のスタッフでチェックすることによって、より薬についてお互い学べるような体制を整えています。また、かかりつけ医に訪問看護も含めて状況を報告し、随時対応できるようにしています。	服薬内容や副作用等スタッフに徹底させ、二人のスタッフでチェックすることによって、より薬についてお互い学べるような体制を整えています。また、かかりつけ医に訪問看護も含めて状況を報告し、随時対応できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の中でのコミュニケーションを通して、また生活歴の情報などから、外出や手作りランチ、イベント等の希望を伺い実現し得意なところを発揮できるように努めています。	日々の中でのコミュニケーションを通して、また生活歴の情報などから、外出や手作りランチ、イベント等の希望を伺い実現し得意なところを発揮できるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めています。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	D勤務という形態があり、日々のケア以外にも対応できるようになっているため可能な限り戸外への外出などの支援に努めています。また利用者の話を日常的に聞いていき、普段では行けないような場所の場合は、家族に連絡を取り出かけられるようにしています。	D勤務という形態があり、日々のケア以外にも対応できるようになっているため可能な限り戸外への外出などの支援に努めています。また利用者の話を日常的に聞いていき、普段では行けないような場所の場合は、家族に連絡を取り出かけられるようにしています。	日々の関わりから個々の希望を聞き取り、手厚い職員配置で、安心・安全なドライブや外食を定期的の実施されていました。遠い所への外出希望を聞き取った際も、家族と連絡を取ることで希望を叶えられるように、ご本人の希望を聞き逃さない対応が実践されていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ホームでの金銭管理を行っています。ご本人の希望があれば一緒に買い物に行き、お財布などを自分で持っていていただき、払っていただくように支援しています。移動パン屋等の訪問販売の際にもご自分の財布から払っていただいておりますが、今は感染予防のため中止しています。	基本ホームでの金銭管理を行っています。ご本人の希望があれば一緒に買い物に行き、お財布などを自分で持っていていただき、払っていただくように支援しています。移動パン屋等の訪問販売の際にもご自分の財布から払っていただいておりますが、今は感染予防のため中止しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、利用者がご家族といつでも連絡が取れる体制を整えています。また、はがきを買い置き、希望の際にはお渡しし書いていただけるよう支援しています。	電話は、利用者がご家族といつでも連絡が取れる体制を整えています。また、はがきを買い置き、希望の際にはお渡しし書いていただけるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は整頓され、歩行時に過度な障害物がないように配置されています。また、菜園にて四季に合わせた野菜を作ったり柿やみかんなどの四季の果物も植えています。	共有空間は整頓され、歩行時に過度な障害物がないように配置されています。また、菜園にて四季に合わせた野菜を作ったり柿やみかんなどの四季の果物も植えています。	開放感のある広いリビングには、テーブルやソファの配置に工夫がみられ、それぞれが寛ぎやすい場所となっていました。建物から外に出られるように掃き出し窓とバルコニーが繋がり、広々とした風景も楽しめ、バルコニーにはベンチの設置もありました。その先には耕作された畑もあって、季節感が感じられる居心地の良い環境が整備されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではソファを適切に配置し、快適なスペースがあるので一人になれたり共に過ごすことが可能な配置になっています。また、非常口のところに建付けのベンチがあり、気分転換や日光浴の場として自由に活用していただいております。	リビングではソファを適切に配置し、快適なスペースがあるので一人になれたり共に過ごすことが可能な配置になっています。また、非常口のところに建付けのベンチがあり、気分転換や日光浴の場として自由に活用していただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具は収納棚のみで、その他の家財道具はお持ち込みいただいております。写真なども飾られたり、できるだけ馴染みの環境に近い空間作りを意識しています。	備え付けの家具は収納棚のみで、その他の家財道具はお持ち込みいただいております。写真なども飾られたり、できるだけ馴染みの環境に近い空間作りを意識しています。	各部屋には、収納棚のみが設置されているため、その他の家具等はすべて持ち込み、使い慣れた物を配置することで、自宅にいるような雰囲気を作り、自分の部屋を認識して頂けるように配慮し「ここに居てもいい」といった安心できる環境を整えていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されており、利用者が安全に活用できるように整備されています。またトイレの位置もわかりやすいように案内を設けています。	廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されており、利用者が安全に活用できるように整備されています。またトイレの位置もわかりやすいように案内を設けています。		